

大和郡山 防災ニュース 4.11月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、様々な取組や防災情報を提供します。

郡山第三地区南避難訓練が行われました！

去る10月23日、郡山南小学校において、郡山第三地区自治連合会の南小学校区の12自治会(柳四丁目、柳三丁目、柳二丁目、柳一丁目、南大工町、北大工町、西矢田町通、洞泉寺町、新紺屋町、紺屋町、豆腐町、車町)の避難訓練が行われました。



訓練は、当日朝9時30分に地震が発生した想定で、参加住民数は、午前10時のセレモニー開始時点で79名、最終的には90名近い参加者がありました。消防団及び市が主催で開催いたしましたが、自治会によっては地域の避難計画に沿って、集団避難していただいたところもありました。

セレモニーでは、大和郡山市消防団 中尾 元司副団長の開会宣言、つづいて加藤 隆男副団長から挨拶の後、参加者は二手に分かれ、グラウンドでは、消防団第一、第二、第五分団による消火器使用訓練、体育館では、市職員による防災ミニ講座受講、仮設トイレ、パーテーション、自動膨張マット、畳ロールなどの避難所用品の見学を行いました。

また最後に、消防団による放水披露が行われ、参加者から大きな拍手がありました。

市指定避難所の運営はその避難所を使う地域全体の課題になります！



小学校などにおける避難所の運営は、いざ災害という時、その避難所を使う地域全体で一緒に考えていただく必要がございます。

郡山南小学校では、今年3月にも、同じ校区の郡山第四地区自治連合会が同様の訓練を行っており、災害時における地域の避難所としての認識も高まってきたと存じます。

市では、自治連合会(校区)毎に実施する市主催防災訓練で学んだことを取り入れながら、地域性を考慮した避難所運営マニュアルを作成しています。今年は昭和地区で開催の予定で、毎月地域の役員の皆さんに集まっていたいただき訓練に向けた打合せを行っていますが、過去に実施した訓練をさらに発展させるようなアイデアをいただいております。いいマニュアルができあがるのではないかと期待しています。

郡山南小学校についても、災害時にここに避難する全ての自治会が近い将来、避難所開設運営訓練等を通じて、共通のマニュアルづくりを

ご検討いただければと考えています。

消防団は地域防災の中核、今後も地域との連携を深めてまいります！

今回の訓練でも、消防団から副団長2名その他、第一分団、第二分団、第五分団から合わせて16名が参加し、訓練の運営にかかわっていただきました。消火器訓練では、参加者全員が十分に訓練に参加できるようにと、訓練用の水消火器にエアーを注入する自家用のコンプレッサーも持ち込んでいただきました。また、フィナーレの放水披露では、プールの水を使って、約100m離れたグラウンド中央で放水するため、2台の消防ポンプ車、7本のホースを連結しましたが、ここでも息の合った動きを見せてくれました。



郡山地区の各分団は団員を募集しています！



今回訓練に参加した郡山地区を守る3つの分団でも、最近では団員の成り手が少なくなって、定員割れの状態が続いています。また、分団の管轄区域出身の団員が半分に満たず、この傾向が進めば、火災や災害の出動に影響が出かねません。このため、各分団では、男女を問わず新入団員を募集しています。

消防や地域活動に興味のある方で一度話を聞いてみたいという方は、市役所市民安全課や地域の各分団にお問い合わせください。

【お知らせ】

災害時避難行動要支援者の皆様へ～

11月中旬に、個別避難計画についてのお手紙を送付いたします！

本市では、①70歳以上の高齢者のみの世帯 ②要介護度3以上の方 ③身体障がい者手帳1、2級の方 ④知的障害者療育手帳Aの方 ⑤精神障害者保健福祉手帳1級の方 ⑥難病患者の方 を災害時避難行動要支援者としており、市内には1万6千人余りの対象者がおられます。

今年は、5年に1度のこれらの皆様へのお問い合わせの年度となっており、11月中旬に、個別避難計画についてお手紙を差し上げます。

今回は、自力や家族だけで避難することができない方、歩けるけど災害時の避難は少し不安な方、他の助けなく避難することができるもしくは避難の必要性が少ない方、の三つのタイプに分類して、それぞれに災害時の避難について考えていただきたいと思います。



このニュースは、市民安全課、市内の各支所、矢田コミュニティ会館、南部公民館で配布しています。また、市のHPでもご覧になれます。

大和郡山防災ニュース 検索

発行人 市役所市民安全課